

Title	Dr. J. H. Breasted逝く
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1936
Jtitle	史学 Vol.14, No.4 (1936. 3) ,p.153a(691a)- 156(694)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報 挿繪:プレステド博士肖像及署名
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19360300-0153

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙報

Dr. J. H. Breasted 逝く

シカゴ大學の東方研究所長ジェームズ・ヘンリー・ブレステッド博士はエジプト學及び古代東方史に精通せる世界屈指の史學者にして考古學者、研究家にして指導者であつた。博士が昨一九三五年十二月二日(一)逝かれたことは私の全く意外とする所であつて誠に哀惜の念に耐へないのである。

筆者が歐洲より歸朝の途次大學に博士を訪れたときは、博士は生憎東方に出張中であつたので、遂にその聲咳に接することが出来ず、遺憾の極であつた。筆者は母校卒業の當時博士の著述を愛讀し、又之を教科書として採用せしめてゐたのであるが、その後博士の「古代文化史」を反譯するに及んで、その出版の許可を乞ひたるに後進指導に親切なる博士は之に興味を持たれ、一面譏もなき筆者の願を容れて『著者の權利に關する限り君は反譯を刊行することが全く自由である』とて出版書肆の必ずや同意すべきことも附記せられ、且つ新發見により舊著に大改訂を加へつゝある旨附加せられ、更に君がアメリカ再訪の節は古代近東の記念碑現物の興味あるコレクションを藏し、研究用に建てられたる新建築物(筆者註東方研究所のこと)内に我等を見出すならん』と記されて

ゐたのに、博士は最早や不歸の客となられて了つたのである。煌ける眼光を秘め、機智に富み、外見上無限の著作力を有してゐるかに見えたといふブレステッド博士は滿七十歳の壽命を保たれはしたが *chronically poor health* (二) と記されてゐるので、平素餘り健康體といふのではなかつたらしい。それでも度々エジプトや西亞の地へ出張せられ、ツータンカーモン王陵開扉の際には來臨して自から象形文字の封印の解讀を助け(三)、先般の小アジアに於ける東方研究所の大發掘に際しては十二ヶ所の中六ヶ所を親しく視察に赴かれたといふ(四)。學に忠實にして壯者を凌ぐその意氣思ふべきである。

社交性を有しなかつた博士は大部分仕事に没頭してゐたと言はれる。その知識の領野に於ては他人と胸襟を開いて語り意見を聞くなどのことはなく、常に獨自の見解で進み、或はインスピレーションにより、又寧ろ冷靜健全なる推理によつて學者的判斷を下して行つたといふが、それでも時には流暢な辯舌で教授達を煙に巻いて悦に入り、或は眞面目くきつて新聞記者をからかつたりしたといふ。校友會誌に二三その話が出るが、その中の一つに『シカゴ・トリビューン』紙が『良き友の週間』(“Good Fellow” campaign)といふ催をしてゐたとき、同紙のクリスマス號に相應はしい主題の執筆を乞はれたのに對し、博士は早速手紙をかいて社で定めた稿料の倍額を要求し新聞社を憤慨させたことがある。しかし社では躊躇なく請求通りの小切手を郵送したところ博士はすぐにその便で之をこの催しの寄附金として送り返して來たので社の憤りも氷解して善良なる喜悅に轉じたといふことである。一

杯贖はされたトリビュン社は少なくともこの稿料の半額を自ら寄附した事になつたのである。

博士の著述は数ある中で、その『エジプト史』と『エジプト古記録』及び『エドウィン・スミス外科パピルス文書』二卷(一九三〇)は最も重要なものであつて、『ケンブリッジ古代史』も、その第二卷(一九二四)中エジプトの部数章に互つて博士の執筆を見るのである。しかし何といつても面白く読まれるのは、その『古代史』(Ancient Times)であつて、この一群の教科書は種々に改題、増減せられはしたが、一九三五年の改訂版は實質的には博士の最後の著述と見るべきものであらう。

博士の理想の實現であつた東方研究所の事業が今や着々として進行中であるのに遽に博士を失つたことはなほ博士の指導を俟つべきもの多き斯學にとつて洵に償ひ難い大いなる損失であつた。私は左に博士の略歴と(數多い論文は挙げ切れないので)成書となれる著作略目のみを掲げて、我等の敬慕するこの偉大なる史學者の追憶の料に供したいと思ふ。

(1) The American Historical Review, XII No. 2, Jan, 1936.
P. 402.

(2) The Alumni Bulletin (the Univ. of Chicago), Vol. I
No. 4, p. 4.

(3) H. Carter and A. O. Mace, the Tomb of Tut-Ankh-
Amen, Vol. I, 1923. Pp. 109, 178.

(4) プレステド博士の助手 Jean M. Roberts 氏より一九三三年五月八日附筆者への手紙。

プレステド博士略歴

James Henry Breasted, A. B., A. M., Ph. D. (Berlin), Hon. D. Litt. (Oxon), Hon. LL. D. (Princeton) は一八六五年八月二十七日、米國イリノイ州ロックフォード(Rockford)に生れた。博士は Charles Breasted と Harriet N. Garrison を父母とし、一八九四年 Frances Hart と結婚し、二男を挙げ、その中一人を失つてゐる。

博士は一八八八年 North-western College (現在の North Central College) を卒業したる後、Chicago Theological Seminary に入りて二年間研究し、次いでニュー・ヘトヴンに赴いて、William R. Harper の影響を受けてエトル大學に復興せるセム語を研究した。一八九一年、既にシカゴの新大學のために計畫中であつたハーバー博士は、又青年プレステドがエジプト學に深甚の興味を惹いてゐると言ふのを聞いて、プレステドに向つてヨーロッパに於て利用し得る限りの最善の訓練を受くべきことを勧めシカゴ大學に於ける將來の地位を豫約したのであつた。プレステドは直にベルリンに赴き、一八九四年同大學に於て學位を得た。氏の業績は頗る見るべきものがあつたので、やがてヘルミン・ライプチヒ、ミンヘン、ゲッチンゲン等諸學士院の委嘱を受けて最初の遺漏なきエジプト語の辭典編集のために、ヨーロッパの諸博物館に保存せられてゐるエジプト金石文の謄寫と整理に當つたのである。

プレステド博士の最初のエジプト研究旅行は一八九四年に行は

れた。氏は又同年シカゴ大學のエジプト學の助手となり、且つ Haskell Oriental Museum の副長を兼ね(一八九五—一九〇一)、次いで同博物館長に進み(一九〇一—三一)、又その間大學に於ける昇進は頗る速かであつてエジプト學及びセム語の講師(一八九六—九八)から助教(一八九八—一九〇二)、アツシエイト教授(一九〇二—五)を経て、遂に一九〇五年にはエジプト學及び東方史の正教授となり(一九〇五—三三)、東方語學部長を兼ね(一九一五—三三)、一九二七年には Distinguished Service Professor に推薦せられた。

一九一九年ロックフェラー(John D. Rockefeller, Jr.)の基金を得て、氏はシカゴ大學に人類初期の生涯と古代文明の歴史を研究するために、この種のものゝ最初の科學的實驗所としての東方研究所を創立し、第一次の所長として一九一九年より二〇〇年に互り近東への研究團を指導し、次いで黒海から上エジプトに及ぶ五個の研究團を組織し、その本部を小アジア(Hittite expedition)パレスチナ(Armagedon ex.)及びルクトール(Epigraphic ex.)に設置した。

氏は一九二五年シカゴと近東に於ける東方研究所の事業に全力を傾注せんがため、教師としての本務を解除せられ、氏の『新十字軍』(東方に於ける古代文化の全遺物の搜索)は愈々本筋を進むことになつた。一九二五年氏がロックフェラーの代表員となりたる結果カイロにエジプト博物館と考古學調査研究所を設置するたため同財團よりエジプト政府へ一千万弗提供の件は氏に一任せられたけれども、エジプト政府が長らく受諾を躊躇してゐたので、遂

に撤回せられたが、一九二七年氏は重ねてパレスチナに於ける同一計畫の必要を説き、二百万弗が同財團よりパレスチナ政府に寄附せられ、その實現を見るに至つた。氏は一九二七年アメリカ史學協會の會長に選舉せられたが、その會長として一九二九年十二月同史學會年次大會の席上に於て、東方研究所の一層永久的なる基礎を固め、近東に於ける史蹟發掘事業を進捗せしめんがため、約一千万弗の資金を得たることを(主としてロックフェラー財團より)發表して來會者を驚倒せしめたことによつても、その行政的手腕のほども察せられるのである。

氏が歐米の學界に如何に重きをなしてゐたかは諸大學より名譽の學位を得たる外、諸國の學士院の外國會員に選任せられ(一九〇七年ベルリン王立科學院、一九三〇年フランス、一九三一年バイエルン、一九三四年ベルギー、一九三五年デンマーク王立學士院、一九三一年ベルリン國立考古學院)又諸學會の會員又は會長に推舉せられ(一九一九年米國東方協會長、ロンドン考古學會名譽會員、米國哲學會々員、一九二七—三〇年同副會長、一九二二年米國地學協會員等々擧げ切れない)であつたによつても知られる。氏は一九三三年教授の職を退いて専ら東方研究所に王者の如くに君臨してゐたのであつた。

ブレステド博士著書略目

1. Esmann's Egyptian Grammar, English edition, 1894;
2. De Hymnis in Solemn sub Rege Amenophide IV., Commentis, 1894;

3. A New Chapter in the Life of Thutmose III, 1900;
4. The Battle of Kadesh, 1903;
5. Egypt through the Sieroo Scope, 1905;
6. The Temples of Lower Nubia, 1906;
7. Ancient Records of Egypt, 5 vols, 1906—07;
8. History of Egypt, 1905, 2nd. ed. 1909. rev., 1912. フラ
ンス, ドイツ, ロシヤ語版及び點字版あり);
9. The Monuments of Sudanese Nubia, 1908;
10. A History of the Ancient Egyptians, 1908;
11. Development of Religion and Thought in Ancient Egypt,
1912. (フ랑스・ドイツ譯準備中とあり);
12. Outlines of European History, Part I (with J. H. Ro-
binson, 1914. 本書の前半は分冊して A Short Ancient Histo-
ry となる。邦譯『古代文化史』);
13. Ancient Times : A History of the Early World, 1915,
(スエーデン, フラビヤ, ヲルー語版, 1926年 The Conquest
of Civilization として改修, 1935年原名にて全部改版, 史學
第十四卷二號書評欄167—8頁参照);
14. Survey of the Ancient World, 1919, (前者の要略版);
15. History of Europe : Ancient and Medieval (with J. H.
Robinson) 1920;
16. A General History of Europe (with J. H. Robinson and
E. P. Smith) 1921, (Outline 二冊の要略版);
17. The Oriental Institute Communications : A Beginning
and a Program, 1923;
18. Oriental Forerunners of Byzantine Painting, (OIP. Vol.
I.) 1924;
19. The Conquest of Civilization, 1926;
20. The Edwin Smith Surgical Papyrus, 2 vols. (OIP) 1930;
21. The Oriental Institute (Vol. XII of University of Chicago
Survey) 1933;
22. The Dawn of Conscience (with J. H. Robinson) 1933.
本號の附録に參照せよとの事
1. Encyclopedia Britannica, 14th. ed., 1929. Vol. IV. Pp.
80—1.
2. The American Historical Review, Vol. XL No. 2 Jan.,
1936. P. 402.
3. The University of Chicago : The Alumni Bulletin, Vol.
I, No. 4. (Nov. 1935) Pp. 4—5.
4. Who's who 1936. Pp. 389—40.
5. Who's who in America 1934—1935 vol. 18. P. 380.
George Elery Hale, The Work of an American Ori-
entalist, in Scribner's Magazine, Vol. LXXIV, Pp. 392—404
(1923) 參照せよとの事なり也。(一六三六—二一六)